

イラストレーションクラス2年生 夏期休業中の宿題について

1. クロッキー 50枚

*50枚は「少なくとも」のつもりです。 目指すは、年間1000枚! 「クロッキーだけで」は無理でも、風景写生や課題作品も入れて、そのくらいの作品数、描けたらいいですね。

***人物の全身クロッキーを主体としますが、動物園に行き、動物をクロッキーしてもいい。**

*例えば、全身クロッキーを半分。

クラスメートとクロッキー会をしてもいいし、家族や電車の中、街角の道行く人を描いてもいい。

学外で描くことの面白さは、やってみてはじめて分かる。 老若男女、さまざまな年齢、多彩な服装などなど、魅力は一杯。

一人の人を描くことに慣れているけれど、**数人が集まっている群像を描くのもエキサイティング。** それぞれの人が、个性的で関係しあっているひとコマ。 ホームの人たち、待ち合わせの広場、遊園地、お祭り、パチンコ屋さん、飲み屋の屋台…。 **その場の雰囲気も素早く描きとれると素敵**ですね。

*あとの半分は、動物や顔など。

手や足を描くのもいいけれど、これを50枚に入れてしまうと、「人」を描く練習としては、ちょっと物足りない。

50枚以外に、いろいろ描いてみるといい。 **顔を描く時は首、肩まで描くようにするといい。 自分の顔や首、肩を手で触ってみてください。どんなふうに凸凹していますか? どこに骨がありますか?**

*人物クロッキーの場合は、1枚の紙面を作品と考えて「構図」のスキルアップを兼ねた練習を薦めています。 対して、動物の場合は、動きや身体の一部などを連続的にとらえる必要がある。 **1枚のページに、連続した動きや部分(例えば足や、しっぽなどいろいろ)をいくつも描く方法もいいと思います。** ある程度動きや形が理解できたら、1枚を作品的に仕上げてもいい。 筆や割り箸ペンなども面白いのは、人物クロッキーと同じです。 **淡彩で、色をつけても素敵**ですね。

2. 風景写生 30枚

*実際に風景を見ながら、現場で制作をした経験が意外に少ない。 何を描く場合も同じですが、**本物を見ることで、たくさんの発見があります。** 描きながら湧き上がってくる想いも大切。 写真を見て描いたモノなどは、30枚には含みません。 「本物を見る。本物を味わう」これが今回の重要ポイント。

*風景画の難しいところは、**時間とともに光や見え方が変わっていくところ。** その中で何を描くか! 写真では表現できない風景。 モネはキャンパスをたくさん用意して、暮れゆく風景を次々にキャンパスを取り替えて描いていったといいます。じっくり描く場合は、完成したい時間を決めて、2日で完成するとかの工夫も必要。いろいろなことが見えてくる。光や風を感じましょう。

***暑さ対策、紫外線対策、虫や蛇への注意は、やりすぎるほどきちんと準備万端でのぞんでください!**

*風景写生と言ってもいろいろあります。 時間をかけて納得がいく作品に仕上げる「風景画」もあれば、鉛筆やペンで描いて水彩で淡彩仕上げするスケッチ、人物クロッキーと同じように短時間で風景の魅力や空間を表現する風景速写(風景クロッキー)。 本格的に描くための下描き。 それらを全部あわせて、30枚以上描いてみましょう。

*大まかに分類すると、

1. 風景速写(15分~1時間)
2. 3時間程度
3. 納得がいくまで描き込む

*サイズに関しては、小さいものばかりでは困るので、A4サイズ以上もしくはF4号以上を中心にします。 それ以下の作品が混ざってもかまいません。 大物で50号くらいの風景画にチャレンジしてもいい。

*ただし、**最低1点はB3(364×515)以上で、着彩仕上げとします。** B3は、ほぼ四つ切り画用紙。 キャンパスサイズでいうと、F8とかF10以上ですね。 しっかりと腰を据えて描いてみましょう。